

■米国：三菱重工業とサザン社が CCS プロジェクトを実施

三菱重工業（MHI）は 2009 年 6 月 22 日、サザン社（本社：ジョージア州アトランタ）と提携して、サザン社の子会社であるアラバマ・パワーの所有するバリー発電所（2,525MW、アラバマ州）で大規模な CO₂ 回収・貯留（CCS）技術の実証試験プロジェクトを行うと発表した。同プロジェクトでは、MHI と関西電力が共同開発した特殊な吸収液を使用した KM-CDR と呼ばれる CO₂ 回収技術が用いられる。サザン社とアラバマ・パワー社はエネルギー省（DOE）が創設した炭素隔離地域パートナーシップの南東部地域に属しており、MHI は彼らの炭素隔離（回収と貯蔵）技術と自社が開発する炭素回収技術とを組合せて総合的な CCS プロセスの実証試験を行うとしている。回収された CO₂ はパイプラインを利用してバリー発電所から 10 マイル（16km）離れた、デンベリー・リソース社が所有する油田に注入して石油の増産を図り、これによって得られる収益を CO₂ 回収費用に充てるとしている。実証試験は 2011 年初期にスタートし、25MW のプラントからの排出量に相当する年間 10 万～15 万トンの CO₂ を回収する計画である。